

異常気象分析検討会 平成25年度定例会  
2014.3.4

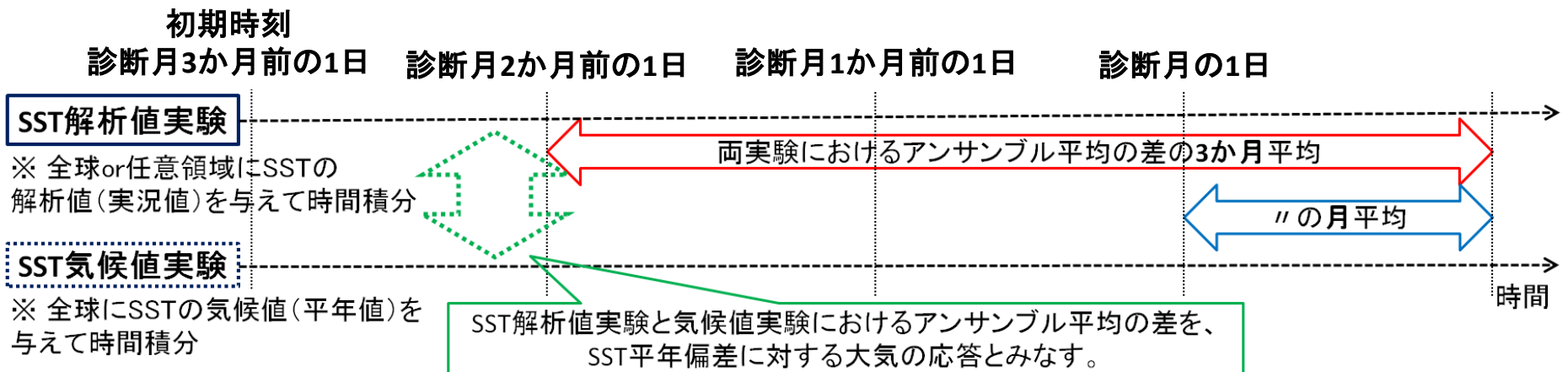
# 今年度の活動報告 来年度の活動計画

# 今年度の活動報告

- 大気モデル(1か月予報モデル)を用いた全球SST感度実験の運用開始
  - 毎月の気候系診断会議において、前月の感度実験結果を報告
  - 実験結果を異常気象分析webに掲載(11月)
- 9月2日に臨時会を開催。2013年夏の極端な天候に関する見解を発表
- JRA-55を用いた異常気象分析webプロダクトの更新
  - ITACSでJRA-55の利用を開始(2014年2月28日)
- 谷本、稲津、堀之内委員と打合せ(6月、北海道大学)
  - 稲津委員提供の低気圧トラッキングプログラムの利用に関してご助言をいただいた
- 委員委嘱(分析検討会:6月、作業部会:9月)
  - 検討会:山崎・安成委員が退任、川村・谷本・渡部委員を新任
  - 作業部会:榎本・本田・安田委員を新任

# 全球SST感度実験の概要

- 全球大気モデル(1か月予報モデル) TL159, L60
- SSTの解析値実験と気候値実験を行い、そのアンサンブル平均の差をSST偏差に対する大気の応答とする
  - SST偏差を与える領域は、全球に加え、任意の領域で設定することができる。
- アンサンブルメンバー数: 11
- 診断対象月の3ヶ月前の1日を初期値とする
  - 例: 5月が診断対象の場合、初期値を2/1として5/31まで積分  
3~5月の3ヶ月平均と5月の月平均を解析
- 大気初期値: 全球速報解析
- 海面水温・海氷: COBE-SSTの日別値



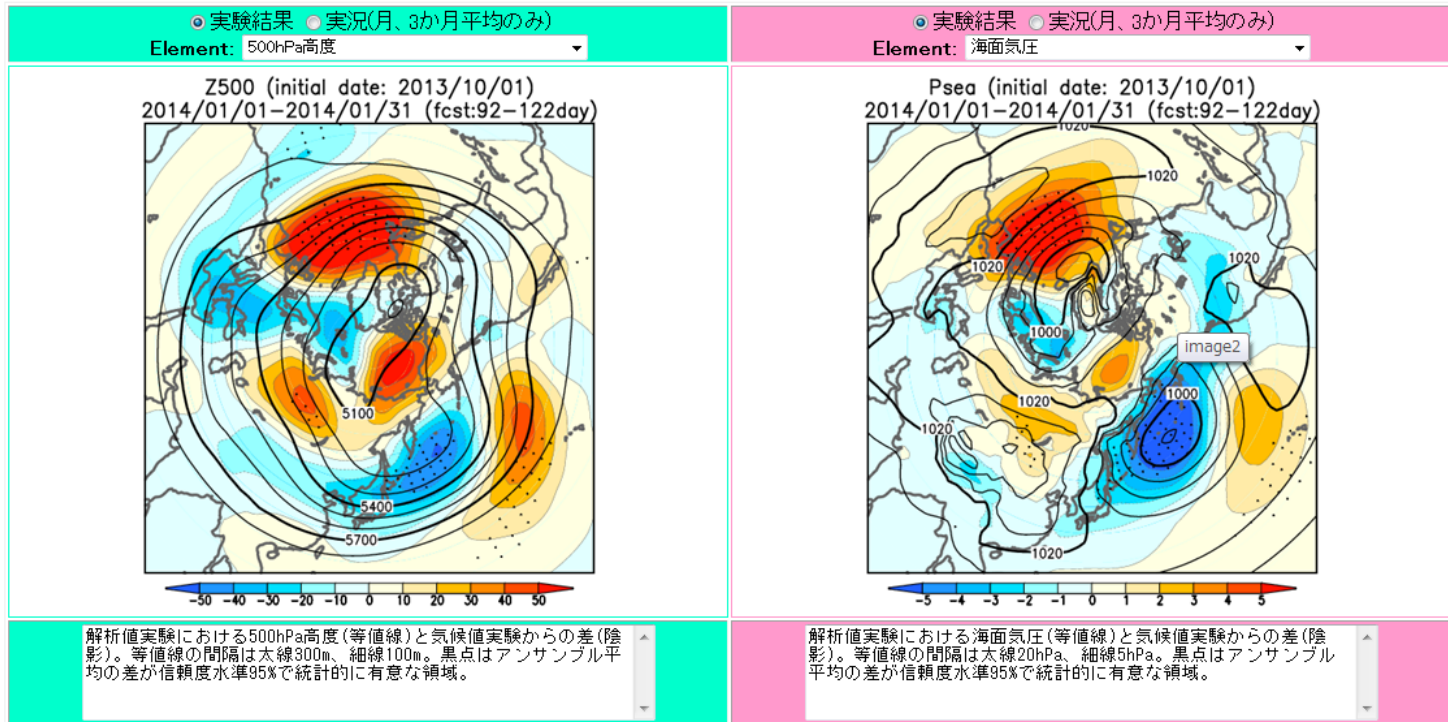
## 海面水温(SST)感度実験の結果表示ページ

[分析WEBのトップ](#) > [監視資料](#) > 海面水温(SST)感度実験の結果

### 海面水温(SST)感度実験の結果

実験名(診断対象月): 2014-01\_NorthPacific 初期日: 2013/10/01 月 平均 予報日: +1day 初期日: -1日 +1日 メンバー: ESBL  
2つの図を同時に変えたい場合にチェック →  実験結果/実況  要素 初期状態に戻す場合はこちら → Default

説明を表示する



# 来年度の活動計画

- 気候系監視のためのツール・プロダクト類の拡充
  - ITACSの改良
  - LBM実験: 渦強制による実験の運用
  - 異常気象分析Webの拡充 (JRA-55を用いた新規プロダクト等)
- NHMを用いた日本近海のSST感度実験の運用
  - 実験結果を異常気象分析webに掲載
- 分析検討会の開催
  - 3月頃に定例会
  - 異常気象発生時に臨時検討会

## 【参考】異常気象分析検討会の任務

- (1) 異常気象に関する気候学的な分析及び調査の実施
- (2) 気象庁が発表する異常気象の発生要因等に関する情報への助言
- (3) 異常気象に関する気候学的な研究成果の気象庁での活用に関する提言

# 異常気象分析作業部会

## 【今年度】

- 9月に委員委嘱。渡部委員が部会長を兼任
- 稲津委員ご提供のトラッキングプログラムを用いた低気圧活動監視を開始した

## 【来年度】

- 平成26年度から、web会議システムの利用を作業部会委員へ拡大(予定)。毎月の気候系診断会議への参加等により、情報共有体制の強化を図る